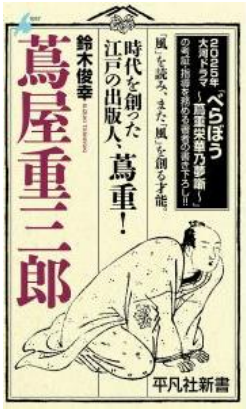
図書館通信

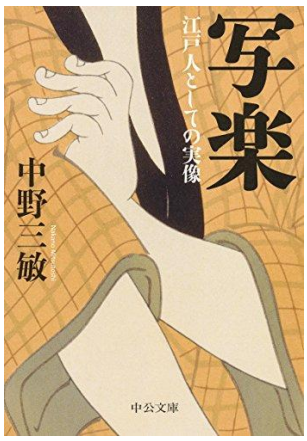
第６号　５月２１日（水）
名古屋経済大学
高蔵高等学校・中学校　発行

５月の「企画展示」テーマは「江戸文化」！

紹介が遅くなりました。今月の「企画展示」は、「江戸文化」をテーマとしています。現在、NHK 大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」が放映されています。今回の「企画展示」はそれに応じる形で、「江戸文化」と設定しました。「べらぼう」の主人公である蔦屋重三郎（18 世紀後半に活躍した出版人）に関する本、伊藤若冲・葛飾北斎などの浮世絵、江戸時代を代表する小説（井原西鶴、曲亭馬琴、十返舎一九などの作品）の現代語訳、江戸文化をテーマとした現代小説などを広く展示しています。「企画展示」をまだ見ていない人は、中間試験終了後、ぜひ図書館に来てください。



私は今回、**鈴木俊幸『蔦屋重三郎』（平凡社新書、2024 年）**や**中野三敏『和本のすすめ－江戸を読み解くために』（岩波新書、2011 年）**を借りました。近世文学・書籍文化史を専門とする鈴木俊幸は、「べらぼう」の時代考証を担当している研究者です。蔦重が江戸民衆のニーズを的確につかみつつ、才能ある作家や浮世絵師などを見出して、ヒット作を次々に生み出していった様相が、簡潔に描かれています。当時から、出版人としても、書店経営者としても高く評価されていた蔦重ですが、彼の個人的な経歴（出自や家族構成など）はあまりよく知られいていないようです－当然のことかもしれませんが。「時代を創った」とまで言わせるほどの異才でありつつ、謎めいた背景に彩られていることが、蔦重の魅力なのかもしれません。



ところで、その「謎」という点に着目すると、蔦重に才能を見出され浮世絵師・東洲斎写楽は、正体不明の人物としてよく知られています。写楽は寛政６年（1794 年）から翌年にかけて、多数の流行作品を世に出した後、忽然と姿を消した絵師です。写楽とは何者だったのか。それを追究した試みが、今までに数多くあるようですが、中でも、皆さんに紹介したいのが、上記『和本のすすめ』の中野三敏が著した**『写楽』（中公文庫、2016 年）**です。著者はもちろん、写楽の正体を特定していますが（ぜひ読んでみてください）、本書の魅力はむしろ、犯人を追い詰める刑事のごとく、限られた史料を突き合わせながら、緻密な推論を積み重ね、結論にたどりつくまでのプロセスです。非常におもしろくて、一挙に読み終えた後の高揚感を今でも覚えています。「探究する」とはどういうことか、良いモデルになるかと思います。

お知らせ

現在、愛知県美術館では、「どうぶつ百景－江戸東京博物館コレクション」と題された企画展が開かれています。期限は6月8日（日）まで。県美術館のウェブサイトに掲載されている案内文を一部抜粋して、以下に紹介します。

江戸時代、長く続いた平和を背景に発展した江戸の街で、人々の暮らしと動物は密接に結びついていました。人々は、犬や猫などを家族の一員として可愛がり、牛や馬などと共に労働し、鳥や虫の鳴き声から四季を感じ取っていました。

明治10年に来日した米国の動物学者エドワード・S・モースは、市井の人々がこうした動物を親切に扱うことに驚きます。彼は、親しみを込めて猫を「さん」付けして呼ぶ人々や、路上の動物を避けて通行する人力車の車夫、草履を履き日除けをつけてもらった荷牛などについて日記に記しました。人々にとって動物が身近であったことは、様々な生き物のかたちを着物や装身具、玩具のデザインに取り込んだことからも読み取れます。

東京都江戸東京博物館の珠玉のコレクションのなかから多様な美術作品・工芸作品を展示し、江戸・東京の都市空間における人と動物の関わり合いをご紹介する展覧会です。

高蔵父母懇×図書館「土日の読書会」の開催！

5月18日（日）の昼下がり、高蔵父母懇の主催する「土日の読書会」が、図書館2階多目的コーナーにて実施されました。総勢16名が参加し、盛況な読書会となりました。参加された皆さま、ありがとうございました。

参加者の感想からは、「土日の読書会」を楽しんでいただけたようです。**「皆さんのお話を聞いて、今後の本選びの参考となりました」（保護者）、「本を読んでみたいという気持ちが強まりました」（保護者）、「普段読まないジャンルの本や興味のある本の話を聞けてよかったです」（生徒）、「あまり読んだことのないジャンルのおもしろさを実感でき、読書会にまた参加したいと思いました」（生徒）、「次に読みたいと思える本に出会えたので、有意義な時間となりました」（教員）、「本でつながる関係がすてきだと思いました」（教員）**など、前向きなコメントがあふれていました。

6月12日（木）の16時からは、図書部による今年度最初の「読書会」が図書館2階多目的コーナーにて開催されます。こちらも、ぜひご参加ください！

高蔵図書館インスタグラムはこちら⇒

TAKAKURA_LIBRARY